

中国語における目的語不定名詞句の解釈と述語のアスペクト性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学大学教育センター 公開日: 2024-04-02 キーワード (Ja): 不定名詞句, 特定解釈, アスペクト性, 結果複合動詞, 達成動詞 キーワード (En): 作成者: 翟, 勇, 徐, 佩伶 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000515

中国語における目的語不定名詞句の解釈と述語のアスペクト性

翟 勇 (静岡大学 大学教育センター)

徐 佩伶 (台湾私立淡江大学 日本語文学系/関西学院大学 客員研究員)

要約： 本稿は、中国語における目的語位置にある不定名詞句 (indefinite NP) の解釈について考察し、事象の完結性が関係することを論じる。目的語の不定名詞句が主語位置の普遍数量詞と共に起る際に、不定名詞句が一般に「不特定」と解釈されるが、文中に共に起る述語が境界を持たないものとなると、「特定の個体 (individual)」を指す解釈ができるようになる。本稿では、目的語に状態変化をもたらす述語 (達成動詞 (accomplishment verb)、売買動詞 (transaction verb)、消費動詞 (consume verb)、出現・消失動詞、結果複合動詞 RCV (resultative compound verb)) を用いて、不定名詞句の解釈と事象の完結性及び述語のアスペクト性との関係を明らかにした。

キーワード： 不定名詞句、特定解釈、アスペクト性、結果複合動詞、達成動詞

はじめに

中国語では、不定名詞句が特定のものをさす解釈と、不特定のものをさす解釈がある。(1)では、主語が固有名詞の *Zhangsan* ‘张三’で、目的語位置にある不定名詞句 *yi-zhi gou* ‘一匹の犬’は特定の一匹の犬をさすことができる。それに対する(2)では、主語が普遍数量詞の *mei-ge ren* ‘皆’となると、目的語位置にある不定名詞句 *yi-zhi gou* ‘一匹の犬’は特定の一匹の犬を指すことができず、「皆にそれぞれ買った犬がいる」という不特定で複数の犬が存在するという意味になる。

- (1) 张三 买了 一只 狗。(那 就是 这只)
Zhangsan mai-le yi-zhi gou. (na jiushi zhe-zhi)
Zhangsan buy-Perf one-CL dog (that is this-CL)
‘Zhangsan bought a dog. (And that is this one)’
‘張三は一匹の犬を買った。(それはこの犬だった)’

- (2) 每个 人 都 买了 一只狗。(*那 就是 这只) ($\forall > \exists$, * $\exists > \forall$)¹⁾
mei-ge ren dou mai-le yi-zhi gou, (*na jiushi zhe-zhi)
every-CL person DOU buy-Perf one-CL dog. (that is this-CL)
‘Everyone bought a dog. (*And that is this one)’
‘皆一匹の犬を買った。(*それはこの犬だった)’

(1)と(2)に示された例では、主語が固有名詞か普遍数量詞かで、目的語位置にある不定名詞句の解釈が変わるように見えるが、実際に、述語のタイプも不定名詞句の解釈に関与している。下記の例を見てもらい

たい。

- (3) a. 每个 人 都 打死 了 一只狗。(*那 就是 这只) ($\forall > \exists$, * $\exists > \forall$)
mei-ge ren dou da-si -le yi-zhi gou. (*na jiushi zhe-zhi)
every-CL person DOU beat-dead-Perf one-CL dog. (that is this-CL)
'Everyone had beaten a dog to death. (*And that is this one)'
'皆一匹の犬を殴って死なせた。(*それはこの犬だった)'²⁾
- b. 每个 人 都 打 了 一只狗。(? 那 就是 这只) ($\forall > \exists$, ? $\exists > \forall$)
mei-ge ren dou da-le yi-zhi gou. (? na jiushi zhe-zhi)
every-CL person DOU beat-Perf one-CL dog. (that is this-CL)
'Everyone had beaten a dog. (? And that is this one)'
'皆一匹の犬を殴った。(? それはこの犬だった) '
- c. 每个 人 都 看见 (了) 一只狗。(那 就是 这只) ($\forall > \exists$, $\exists > \forall$)
mei-ge ren dou kanjian(-le) yi-zhi gou .(na jiushi zhe-zhi)
every-CL person DOU see-see-(Perf) one-CL dog. (that is this-CL)
'Everyone had seen a dog. (And that is this one)'
'皆一匹の犬を見た。(それはこの犬だった) '
- d. 每个 人 都 讨厌 一只狗。(那 就是 这只) ($\forall > \exists$, $\exists > \forall$)
mei-ge ren dou taoyan yi-zhi gou. (na jiushi zhe-zhi)
every-CL person DOU hate one-CL dog. (that is this-CL)
'Everyone hates a dog. (And that is this one)'
'皆一匹の犬を嫌っている。(それはこの犬だった) '
- e. 每个 人 都 怀疑 一只狗。(那 就是 这只) ($\forall > \exists$, $\exists > \forall$)
mei-ge ren dou huaiyi yi-zhi gou. (na jiushi zhe-zhi)
every-CL person DOU suspect one-CL dog. (that is this-CL)
'Everyone suspects a dog. (And that is this one)'
'皆一匹の犬を疑っている。(それはこの犬だった) '

目的語位置にある不定名詞句 *yi-zhi gou* '一匹の犬'は、(3a)において「皆一人一人には殴って死なせた犬が存在する」という「不特定」の犬として解釈され、(3b-e)では、「不特定」の解釈のほかに、「皆に殴られた犬」、「皆に見かけられた犬」、「皆に嫌われている犬」、「皆に疑われている犬」のように、「特定の」一匹の犬として解釈もできる。

(3)の文を観察すると、(3a, b)と(3c-e)との最も明らかな違いが述語の性質にあることが分かる。つまり、目的語位置にある不定名詞句が「特定のもの」と解釈されるには、「目的語 NP の状態に変化を与えない」述語であるほど、特定の解釈が現れやすいのである。(3c)における *kanjian* '見る'、(3d)における *taoyan* '嫌う'と、(3e)における *huaiyi* '疑う'といった述語が目的語に何らかの変化をもたらさない場合、目的語の不定名詞句が「特定のもの」として解釈ができる。他方、目的語に影響を与え、目的語に何らかの変化を引き起こすような述語の場合では、例として、(3a)における *da-si* '殴り死なせる'のような述語では、目的語

の不定名詞句 *yi-zhi gou* ‘一匹の犬’を繰り返して「死なせる」ことができないため、*yi-zhi gou* ‘一匹の犬’を「特定の個体」として解釈できないのである。(3b)における *da-le* ‘殴った’のような働きかけのある述語の場合では、*yi-zhi gou* ‘一匹の犬’が繰り返して皆に殴られるという反復可能な状況において解釈すれば、「特定の個体」としての解釈が許される。このような「特定の犬」に対して反復可能なイベントを想定しなければ、(3b)でも不特定の解釈のほうが自然である。このような事実を次のように一般化することができる。

- (4) a. 述語が目的語 NP の状態に変化をもたらすほど、目的語の不定名詞句が「不特定」のものとして解釈されやすい。(3a,b)
b. 述語が目的語 NP の状態に何らかの変化をもたらさない場合、目的語の不定名詞句が「特定」のものとして解釈されやすい。(3c-e)

以下、(4)の一般化を踏まえ、不定名詞句の解釈のあり方をさらに考察し、述語のアスペクト性との関わりがあることを示していく。第 1 節では、状態変化を引き起こす述語を用いて不定名詞句の解釈を検証しながら、述語のタイプ及び共起するアスペクトの要素によって「特定の解釈」が許されることを指摘する。第 2 節では、Smith (1997)を概観し、述語のアスペクトと事象の完結性の観点から不定名詞句の解釈が捉えられることを主張する。第 3 節は結論である。

1 述語のタイプと不定名詞句の解釈

この節では、目的語に何らかの変化を引き起こしやすいと思われるタイプの述語を挙げ、目的語位置にある不定名詞句がどのように解釈されるのかを検証していく。議論の対象となる述語が目的語の状態変化をもたらすかどうかという意味の基準に基づき、本論では次の三つのタイプの動詞を挙げてみる。a.達成動詞 (accomplishment verb) (Vendler 1957, Smith 1997) ; b. 売買動詞 (transaction verb)、消費動詞 (consume verb)、出現・消失動詞; c.結果複合動詞 RCV (resultative compound verb)。

1.1 達成動詞

まず、達成動詞に関して、(5)に示すような動詞が挙げられる。

- (5) 達成動詞 (accomplishment verb) :

盖房子 *gai-(fangzi)* ‘(家を) 建てる’、煮饭 *zhu-(fan)* ‘(ご飯を) 炊く’、做菜 *zuo-(cai)* ‘料理をする’、写 *xie* ‘書く’、画 *hua* ‘描く’、设计 *sheji* ‘デザインする’、赢 *ying* ‘勝ち取る’等。

(5)に示された動詞は動作動詞ではあるが、目的語を取ることと完結相の *le* を付くことで完結性を持つようになる (Sybesma 1997, Robson 2005, Ljungqvist 2007, Wang 2018)。このような達成動詞が不定名詞句を目的語に取る場合、不定名詞句が「不特定」としか解釈されない。具体例を(6)に示す。

- (6) a. 每个 人 都 盖了 一栋 房子。(*那 就是 这栋) ($\forall > \exists$, $*\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou gai-le yi-dong fangzi. (*na jiushi zhe-dong)
 every-CL person DOU build-Perf one-CL house (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone has built a house. (*And that is this one)’
 ‘皆一軒の家を建てた。(*それはこの家だった)’
- b. 每个 人 都 煮了 一锅 饭。(*那 就是 这锅) ($\forall > \exists$, $*\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou zhu-le yi-guo fan. (*na jiushi zhe-guo)
 every-CL person DOU cook-Perf one-CL rice (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone has cooked a pot of rice. (*And that is this one)’
 ‘皆一つの釜のご飯を炊いた。(*それはこのご飯だった)’
- c. 每个 人 都 写了 一篇 文章。(*那 就是 这篇) ($\forall > \exists$, $*\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou xie-le yi-pian wenzhang. (*na jiushi zhe-pian)
 every-CL person DOU write-Perf one-CL article (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone has written an article. (*And that is this one)’
 ‘皆一つの文書を書いた。(*それはこの文書だった)’
- d. 每个 人 都 设计了 一个 产品。(*那 就是 这个) ($\forall > \exists$, $*\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou sheji-le yi-ge chanpin. (*na jiushi zhe-ge)
 every-CL person DOU design-Perf one-CL product (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone has designed a product. (*And that is this one)’
 ‘皆一つの商品をデザインした。(*それはこの商品だった)’
- e. 每个 人 都 赢了 一叠 钞票。(*那 就是 这叠) ($\forall > \exists$, $*\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou ying-le yi-die chaopiao. (*na jiushi zhe-die)
 every-CL person DOU win-Perf one-CL paper money (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone has won a wad of cash. (*And that is this one)’
 ‘皆一束のお金を勝ち取った。(*それはこの札束だった)’

(6a)では「皆それぞれ一軒の家を立てた」の意味であり、「皆が（協力しあって）一軒の家を立てた」という意味ではない。つまり、*yi-dongfangzi* ‘一軒の家’は「特定」の一軒の家をさすことができず、「不特定」の解釈しかない。(6b-e)に示された例も同様な解釈である。(6b)では「作った特定の釜のご飯」を指すのではなく、(6c)でも「特定の文章」を指すのではない。(6d)では、皆それぞれデザインした製品もそれぞれの仕様があり、「特定の一つの製品」ではない。(6e)における「一束の札」も実際に人数に応じた複数の束の札が存在し、特定されたものではないのである。

1.2 売買、消費、出現・消失動詞

次に、達成動詞と同様に目的語の不定名詞句が「不特定」としか解釈されない述語を挙げる。それは(7)に示すような、売買動詞、消費動詞と、出現・消失動詞である。

- (7) a. 売買動詞 (transaction verb) :
 买 *mai* ‘買う’、卖 *mai* ‘売る’等。
- b. 消費動詞 (consume verb) :
 吃 *chi* ‘食べる’、喝 *he* ‘飲む’等。
- c. 出現・消失動詞 :
 丢 *diu* ‘なくす/捨てる’、有 *you* ‘所有する’等。

(7)に示された動詞が不定名詞句を取る例を(8)に示す。

- (8) a. 每个 人 都 买了 一 本 书。(*那 就是 这本) ($\forall > \exists$, * $\exists > \forall$)
*mei-ge ren dou mai-le yi-ben shu. (*na jiushi zhe-ben)*
 every-CL person DOU buy-Perf one-CL book (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone has bought a book. (*And that is this one)’
 ‘皆一冊の本を買った。(*それはこの本だった)’
- b. 每个 人 都 吃了 一 块 蛋糕。(*那 就是 这块) ($\forall > \exists$, * $\exists > \forall$)
*mei-ge ren dou chi-le yi-kuai dangao. (*na jiushi zhe-kuai)*
 every-CL person DOU eat-Perf one-CL cake (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone has eaten a piece of cake. (*And that is this one)’
 ‘皆一つのケーキを食べた。(*それはこのケーキだった)’
- c. 每个 人 都 丢了 一 支 笔。(*那 就是 这支) ($\forall > \exists$, * $\exists > \forall$)
*mei-ge ren dou diu-le yi-zhi bi. (*na jiushi zhe-zhi)*
 every-CL person DOU lose-Perf one-CL pen (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone has lost a pen. (*And that is this one)’
 ‘皆一本のペンをなくした。(*それはこのペンだった)’
- d. 每个 人 都 有 一 支 笔。(*那 就是 这支) ($\forall > \exists$, * $\exists > \forall$)
*mei-ge ren dou you yi-zhi bi. (*na jiushi zhe-zhi)*
 every-CL person DOU own one-CL pen (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone owns a pen. (*And that is this one)’
 ‘皆一本のペンを所有する。(*それはこのペンだった)’

(8a)における「一冊の本」は皆がお金を出しあって手に入れた「特定の本」ではなく、また、特定の一冊の本に対して、皆が手に入れたという解釈もできない。(8b)における「一つのケーキ」が皆で一緒に食べたものを指すのではなく、(8c, d)では、「一本の特定のペン」が皆に所有され、あるいはなくされるような状況も考えられない。

以上の事実から、(5)と(7)に挙げられた動詞では、主語位置に普遍数量詞 *mei-ge* NP ‘すべての NP’を含む文において、目的語位置にある不定名詞句が「特定の解釈 (一つ特定の個体を指す解釈)」ができず、それぞれ異なっている「不特定のもの」としてしか解釈されないことが分かる。達成動詞、売買動詞、消費動詞、出現・消失動詞は目的語の状態に何らかの変化を引き起こすことのある述語であり、状態変化が

一旦起きたら、元の状態に還元しない限り、イベントが反復不可能なため、(4a)に示された一般化の通り、目的語位置にある不定名詞句が「不特定」として解釈されやすいということである。

1.3 結果複合動詞

前節では達成動詞、売買動詞、消費動詞、出現・消失動詞の例を見たが、結果状態が明確に語彙構造に含まれる結果複合動詞の場合においても、目的語に何らかの変化をもたらす、目的語の不定名詞句 NP が「不特定」のものとして解釈されやすい。(9)は結果複合動詞の例であり、(10)は不定名詞句が共起する例である。

(9) 結果複合動詞 (RCV) ³⁾ :

撞破 *zhuang-po* ‘ぶつける-壊れる’、打哭 *da-ku* ‘殴る-泣く’、哭湿 *ku-shi* ‘泣く-濡れる’、唱哭 *chang-ku* ‘歌う-泣く’等。

- (10) a. 每个 人 都 撞破了 一道门。(? 那 就是 这道) ($\forall > \exists$, $?\exists > \forall$)
mei-ge ren dou zhuang-po-le yi-dao meng. (? na jiushi zhe-dao)
 every-CL person DOU hit-break-Perf one-CL door (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone had broken a door. (? And that is this one)’
 ‘皆一つの扉を (ぶつけて) 壊した。 (? それはこの扉だった) ’
- b. 每个 人 都 打哭了 一个 学生。(?? 那 就是 张三) ($\forall > \exists$, $??\exists > \forall$)
mei-ge ren dou da-ku-le yi-ge xuesheng. (?? na jiushi Zhangsan)
 every-CL person DOU hit-cry-Perf one-CL student (that exactly is Zhangsan)
 ‘Everyone had hit a student to cry. (?? And that is this one)’
 ‘皆一人の学生を (殴って) 泣かせた。 (?? それはこの学生だった) ’
- c. 每个 人 都 哭湿了 一条 手帕。(?? 那 就是 这条) ($\forall > \exists$, $??\exists > \forall$)
mei-ge ren dou ku-shi-le yi-tiao shoupa. (?? na jiushi zhe-tiao)
 every-CL person DOU cry-wet-Perf one-CL handkerchief (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone had cried and wet a handkerchief. (?? And that is this one)’
 ‘皆泣いて一枚のハンカチを濡らした。 (?? それはこのハンカチだった) ’
- d. 每个 歌星 都 唱哭了 一位 听众。(那 就是 这位) ($\forall > \exists$, $\exists > \forall$)
mei-ge gexing dou chang-ku-le yi-wei tingzhong. (na jiushi zhe wei)
 every-CLsinger DOU sing-cry-Perf one-CL audience (that exactly is this CL)
 ‘Every singer had sung and made an audience cry. (And that is this one)’
 ‘歌手が皆歌って一人の聴衆を泣かせた。 (それはこの方だった) ’

結果複合動詞は、主語による目的語への働きかけと、その働きかけによって生じられる結果状態が両方含まれる動詞である。ある結果状態が生じるということは、動作のプロセスの出力によって変化が引き起こされた結果のことと想定できる。そうすると、変化が生じた目的語の状態と、変化の前の状態とは必ず異なるものであり、(4a)に示された一般化のように、目的語位置にある不定名詞句が「特定の解

積」として容認されにくいということになる。確かに、(10a-c)のような、*zhuang-po* ‘ぶつけて壊れる’、*da-ku* ‘殴って泣く’、*ku-shi* ‘泣いて濡れる’のような結果複合動詞の場合では、不定名詞句が「特定のもの」として解釈するのが不自然である。しかし、(10d)に示されたような例では、*chang-ku* ‘歌って泣く’のような動詞の場合において「歌手の歌に感動させられて泣いた特定のファンが一人いる」という解釈が容認できる。このような例は一見反例のように思われるが、詳しく観察すると、不定名詞句が特定の個体解釈 (individual reading) とされることが可能になるのは、事象が反復可能だけではなく、結果状態も反復可能な状況でなければならない。要するに、目的語の不定名詞句がある結果状態になっても、結果状態になる前の状態に戻ることが可能な場合において、「特定の」解釈が可能になるのである。もし目的語が状態の変化する前の状態に戻ることが許されない状況にあれば、不定名詞句を「特定の個体」として解釈すると、文が容認できなくなる。(3a)に示された例はこの分析を支持している。(3a)の例を(11)に再掲する。

(11) ((3a)の再掲)

每个 人 都 打死 了 一只狗。(*那 就是 这只) ($\forall > \exists$, $*\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou da-si-le yi-zhi-gou. (*na jiushi zhe-zhi)
 every-CL person DOU beat-dead-Perf one-CL dog (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone had beaten a dog to death. (*And that is this one)’
 ‘皆一匹の犬を殴って死なせた。(*それはこの犬だった)’

(11)では、目的語の不定名詞句 *yi-zhi gou* ‘一匹の犬’が特定の個体として解釈されないのは、「死んだものが生き返って、また死ぬ」ということができないためである。打死 *da-si* ‘殴って死なせる’という結果複合動詞では、目的語が一旦 *si* ‘死ぬ’という状態になると、死ぬ前の状態に戻れないため、結果状態が反復不可能である。よって、不定名詞句 *yi-zhi-gou* ‘一匹の犬’が特定の個体として解釈できず、不特定で異なる複数の犬という解釈しかできない。一方、(10d)に示している例では、*chang-ku* ‘歌って泣く’のような結果複合動詞の場合において、目的語の不定名詞句 *yi-wei tingzhong* ‘一人の聴衆’が不特定で複数の聴衆として解釈されれば、特定の一人の聴衆として解釈されることも可能である。なぜならば、「歌手が歌う」という事象が繰り返されることによって、*ku* ‘泣く’という状態も反復可能であるからである。

1.4 非現実の助動詞 *xiang* ‘-たい’との共起

この節では、結果状態を引き起こす動詞でも非現実を表す助動詞の *xiang* ‘-たい’が生起すると、目的語の不定名詞句が「特定」として解釈できるようになることを論じる。(12a)は売買動詞の例であり、(12b)は消費動詞の例で、(12c, d)は結果複合動詞を含む例である。これらの例を見ると、目的語の不定名詞句が「不特定の解釈」とされるほか、「特定の個体」を指すこともできる。

(12) a. 売買動詞

每个 人 都 想 买 一本书。(那 就是 这本) ($\forall > \exists$, $\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou xiang mai yi-ben shu. (na jiushi zhe-ben)
 every-CL person DOU want buy one-CL book (that exactly is this-CL)

‘Everyone wants to buy a book. (And that is this one)’

‘皆一冊の本を買いたがっている。（それはこの本だ）’

b. 消費動詞

每个 人 都 想 吃 一块 蛋糕。(那 就是 这块) (∀>∃, ∃>∀)

mei-ge ren dou xiang chi yi-kuai dangao. (na jiushi zhe-kuai)

every-CL person DOU want eat one-CL cake (that exactly is this-CL)

‘Everyone wants to eat a piece of cake. (And that is this one)’

‘皆一つのケーキを食べたがっている。（それはこのケーキだ）’

c. 結果複合動詞（他動詞＋非対格動詞）

每个 人 都 想 打破 一个 花瓶。(那 就是 这个) (∀>∃, ∃>∀)

mei-ge ren dou xiang da-po yi-ge huaping. (na jiushi zhe-CL)

every-CL person DOU want hit-break one-CL cake (that exactly is this-CL)

‘Everyone wants to break a vase. (And that is this one)’

‘皆一つの花瓶を壊したがっている。（それはこの花瓶だ）’

d. 結果複合動詞（他動詞＋非能格動詞）

每个 人 都 想 骂哭 一个 学生。(那 就是 这个) (∀>∃, ∃>∀)

mei-ge ren dou xiang ma-ku yi-ge xuesheng. (na jiushi zhe-ge)

every-CL person DOU want blame-cry one-CL student (that exactly is this-CL)

‘Everyone wants to blame a student and makes him cry. (And that is this one)’

‘皆一人の学生を（叱って）泣かせたがっている。（それはこの学生だ）’

(12)に示された解釈は何も不思議なことではない。非現実を表す助動詞 *xiang* ‘-たい’がつくことで、結果状態が含意される動詞でも非現実な事象を述べることに留まり、事象が完結していないのと同様である。事象が完結しなければ、結果の状態に至ることはなく、不定名詞句も「特定の個体」を指すことができるのである。

ところが、興味深いことに、(12)に挙げられた動詞に対して、達成動詞と出現・消失動詞の場合では、非現実の助動詞 *xiang* と共起しても不定名詞句は「特定の個体」として解釈できない。具体例は(13)と(14)に示す。

(13) 達成動詞

a. 每个 人 都 想 盖 一栋 房子。(那 就是 这栋) (∀>∃, *∃>∀)

mei-ge ren dou xiang gai yi-dong fangzi. (*na jiushi zhe-dong)

every-CL person DOU want build one-CL house (that exactly is this-CL)

‘Everyone wants to build a house. (*And that is this one)’

‘皆一軒の家を建てたがっている。（*それはこの家だ）’

b. 每个 人 都 想 设计 一个 产品。(那 就是 这个) (∀>∃, *∃>∀)

mei-ge ren dou xiang sheji yi-ge chanpin. (*na jiushi zhe-ge)

every-CL person DOU want design one-CL product (that exactly is this-CL)

‘Everyone wants to design a product. (*And that is this one)’

‘皆一つの商品をデザインしたがっている。 (*それはこの商品だ)’

(14) 出現・消失動詞

- a. 毎 個 人 都 想 丟 一 支 筆。 (*那 就 是 這 支) ($\forall > \exists$, * $\exists > \forall$)

mei-ge ren dou xiang diu yi-zhi bi. (*na jiushi zhe-zhi)

every-CL person DOU want toss one-CL pen (that exactly is this-CL)

‘Everyone wants to toss a pen. (*And that is this one)’

‘皆一本のペンを捨てたい。 (*それはこのペンだった)’

- b. 毎 個 人 都 想 有 一 支 筆。 (*那 就 是 這 支) ($\forall > \exists$, * $\exists > \forall$)

mei-ge ren dou xiang you yi-zhi bi. (*na jiushi zhe-zhi)

every-CL person DOU want own one-CL pen (that exactly is this-CL)

‘Everyone wants to own a pen. (*And that is this one)’

‘皆一本のペンを所有したい。 (*それはこのペンだった)’

(13)は達成動詞を含む例であり、(14)は出現・消失動詞を含む例である。いずれの場合でも不定名詞句が不特定で複数のものとして解釈される。(13a)では、「皆にそれぞれ建てたい家がある」という意味であり、(13b)では「皆にそれぞれデザインしたい製品がある」という意味である。(14)も同様に、「皆にそれぞれ捨てたいペンがある」という解釈と、「皆それぞれ所有したいペンがある」という解釈である。この事実から、達成動詞と出現・消失動詞は、売買動詞、消費動詞と結果複合動詞とは性質が異なることが分かる。(15)はまとめである。

(15) 述語のタイプと不定名詞句の解釈

述語タイプ	アスペクト	完結性	目的語の不定詞名詞句	
			不特定解釈	特定解釈
達成動詞	完了-le	有	○	×
	非現実 xiang	無	○	×
出現・消失動詞	完了-le	有	○	×
	非現実 xiang	無	○	×
売買動詞	完了-le	有	○	×
	非現実 xiang	無	○	○
消費動詞	完了-le	有	○	×
	非現実 xiang	無	○	○
結果複合動詞	完了-le	有	○	×
				○ (結果状態が元の状態に戻れる動詞)
	非現実 xiang	無	○	○

達成動詞と出現・消失動詞の場合では、完了を表す *le* が付いても非現実を表す *xiang* が付いても不定名詞句が「不特定」としか解釈されないということは、事象の「完結性」のほかに、構造にも関係すると

考える（構造に関して 2.2 で述べる）。一方、売買動詞、消費動詞と結果複合動詞は、非現実を表す *xiang* が付くと、目的語の不定名詞句が「特定の個体」という解釈が得られる。その中で、結果複合動詞の場合には、結果状態が変化の前の状態に戻れるような状況、すなわち、結果状態が反復できるような状況にあれば、不定名詞句も「特定の個体」として解釈される。こうして、特定の個体として解釈される不定名詞句について以下のように記述できる。

- (16) a. 目的語の不定名詞句が「特定の個体」として解釈されうるのは、
 (i) 売買動詞、消費動詞、結果複合動詞が未完結な事象を表す場合と、
 (ii) 完結した事象において結果状態が反復可能な場合（結果複合動詞）に限る。
b. 達成動詞、出現・消失動詞では、目的語の不定名詞句が「不特定解釈」のみである。

次の節では、(16)に示された一般化を事象の完結性と構造で説明を試みる。

2 事象の完結性と結果の状態

事象の完結性は語彙自身を持つ意味による場合（例えば、達成動詞、出現・消失動詞）と、項のタイプとの組み合わせによって完結性を持たせる場合がある。項のタイプに関しては、裸名詞の場合と可算名詞の場合において、完了の *le* が共起すると、事象の完結性が異なってくることが分かる。具体例を(17)に示す。(17a)では項が裸名詞 *dangao* ‘ケーキ’であり、完了の *le* と共起しても事象が完結していないのに対し、(17b)では、項が *yi-fen dangao* ‘一つのケーキ’であり、完了の *le* と共起すると、完結した事象（completive reading）として解釈される。

- (17) a. 张三 吃了 蛋糕, 但是 没 吃完。
Zhangsan chi-le dangao, danshi mei chi-wan.
Zhangsan eat-Perf cake but not eat-end
‘Zhangsan ate a cake but has not finished it yet.’
‘張三がケーキを食べたが、食べ切れなかった。’
b. *张三 吃了 一份 蛋糕, 但是 没 吃完。
*Zhangsan chi-le yi-fen dangao, danshi mei chi-wan.
Zhangsan eat-Perf one-CL cake but not eat-end
‘Zhangsan ate a piece of cake but has not finished it yet.’
‘張三が一つのケーキを食べたが、食べ切れなかった。’

つまり、1 節で述べた述語には、達成動詞のような語彙自体に完結性を持つものもあれば、完了の *le* と共起することで完結性が生み出される動詞類もある。前者は達成動詞のほかに、出現・消失動詞もその類であり、後者は売買動詞、消費動詞と結果複合動詞である。そして、語彙自体に完結性を持つ述語は、完了 *le* によって完結性が導入されたのではないため、非現実の *xiang* と共起しても、語彙自体の持つ完結性の意味が取り消されることはない。よって、達成動詞、出現・消失動詞のような事象の完結性の意味を

持つ述語では、目的語の不定名詞が「不特定のもの」しか解釈されないのである。一方、完了 *le* によって事象の完結性が導入される動詞類では、完了の *le* がなければ、事象も完結しないことになる。よって、売買動詞、消費動詞と結果複合動詞のような述語が非現実の *xiang* と共起すると、完結性を持たない事象となり、不定名詞句が「特定の個体」とされる解釈が可能になるのである。

なお、事象の完結性と結果状態との間にどのような関係があるのかということについて、Smith (1997) が動詞の特徴に関して仮定する状況タイプ (situation types) と視点タイプ (viewpoint types) を考えれば、完結性と結果状態との間の関連性が見えてくる。

2.1 Smith (1997)

Smith (1997) は、文のアスペクト意味が状況タイプ (situation type) と視点タイプ (viewpoint type) の構成要素からの情報合成であると述べている (Smith, 1997: 1 “The aspectual meaning of a sentence is a composite of the information from the components of viewpoints and situation type.”)。状況タイプは、動詞の内在的時間的性質 (瞬間性、持続性、結果性など) をタイプ化したものである。(18) に示す 5 つのタイプに分けられる (Smith, 1997: 3 (2))。

(18) Situation types

States: static, durative (know the answer, love Mary) (状態動詞：動きのない状態を示すもの)

Activity: dynamic, durative, atelic (laugh, stroll in the park) (活動動詞：動的で持続性のあるもの)

Accomplishment: dynamic, durative, telic, consisting of process and outcome (build a house, walk to school, learn Greek) (達成動詞：持続性があるが決まった終結点を有するもの)

Semelfactives: dynamic, atelic, instantaneous (tap, knock) (一過性動詞：動的で瞬間的だが、限界性がないもの)

Achievement: dynamic, telic, instantaneous (win the race, reach the top) (到達動詞：持続的でなく動的で、限界性 (それ以上先へ進めない動作の終結点) があるもの)

(Smith, 1997: 3 (2))

視点タイプは、完成相 perfective (totality-viewpoint) と不完結相 imperfective (internal-viewpoint) の対立を文法化したものである。(19) に示す 3 つのタイプに分けられる (Smith, 1997: 3 (3))。

(19) Viewpoint types

Perfective viewpoints focus a situation in its entirety, including both initial and final endpoints. (完成相：状況をひとまとまりに捉える。始点と終点を含む。)

Imperfective viewpoints focus part of a situation, including neither initial nor final endpoints. (不完結相：状況の一部 (内部) に焦点を置く。始点と終点を含まない。)

Neutral viewpoints are flexible, including the initial endpoint of a situation and at least one internal stage (where applicable) (完成相か不完結相か中立的。少なくとも、始点を含む。)

(Smith, 1997: 3 (3))

以上を踏まえて、達成動詞、売買動詞、消費動詞、出現・消失動詞と結果複合動詞の特徴に Smith (1997) の分類に従うと、それぞれ下記のように考えられる。

(20) a. 達成動詞、出現・消失動詞

動詞自体に時間的な境界を持っている。その動作が完了したときに、新しい結果状態がその出力として現れる。
(Smith, 1997:49 (31))

b. 売買動詞、消費動詞

これらの動詞が動作動詞の一部であり、動詞自体に時間的な境界を持たない。これらの動詞による事象完結性は、項と完了 *le* とを組み合わせることで可能である。その完結した事象がそれぞれの結果状態を持ち出す。
(Smith, 1997:52)

c. 結果複合動詞 RCV (resultative compound verb)

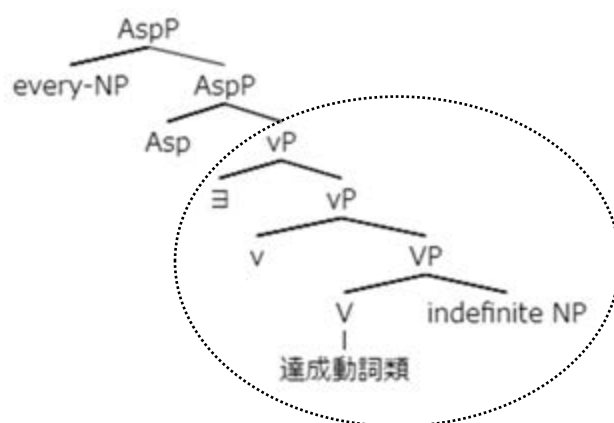
結果状態を表す要素が動作動詞と複合することで、動作に時間的な境界を設定される。完了 *le* と共起することで、動作が完結され、その後に結果状態が続く。
(Smith, 1997:35)

「結果状態」というのは事象の完結によって出力されたものであり、目的語の *theme* がその出力されている結果状態において参与者 (participant) でなければならないということである。

2.2 不定名詞句の解釈と構造

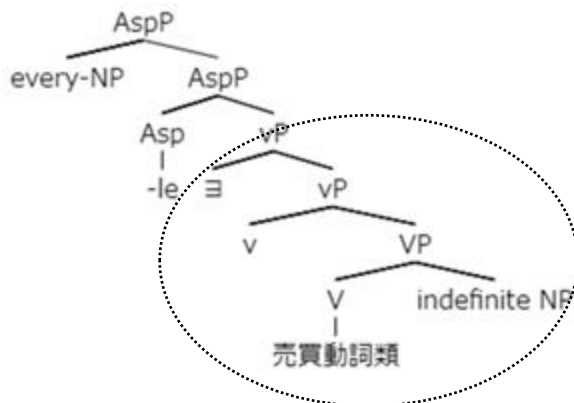
達成動詞と出現・消失動詞は語彙的な境界を持ち、事象の「完結性」のほかに、目的語の不定名詞句が「不特定」としか解釈されないことが構造にも関係している。つまり、目的語の不定名詞句が述語の語彙的要請で動詞句内に解釈されなければならない、主語位置にある普遍数量詞 *mei-ge* NP より狭いスコープを取るということである。達成動詞類（達成動詞、出現・消失動詞を含む）の意味構造を(21)のように仮定できる。(21)に示される構造の中で、存在量化の $\exists$ が義務的に導入され、目的語位置の不定名詞句はそれによって束縛される (Diesing 1992)。そして、不定名詞句は主語位置の普遍数量詞 *mei-ge*-NP ‘every-NP’ より狭いスコープを取るため、「特定の個体」の解釈ができず、不定・不特定の解釈しか得られないのである。

(21) 達成動詞類（達成動詞、出現・消失動詞）⁴⁾



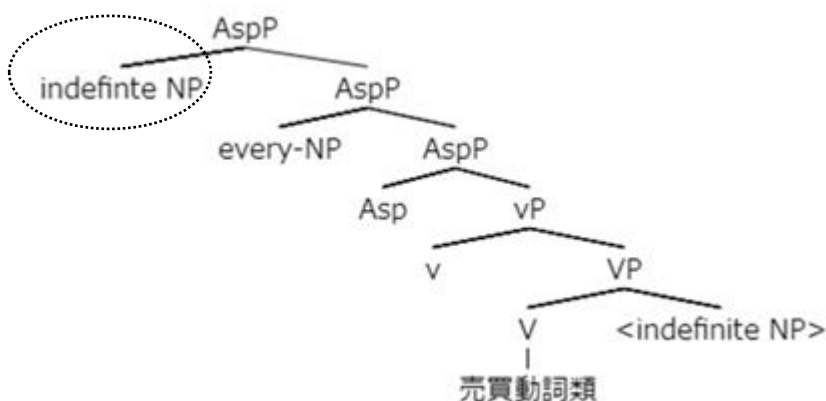
一方、売買動詞、消費動詞と結果複合動詞は動作動詞であり、語彙的な境界を持たず、完了 *le* が共起することによって、存在量化の $\exists$ が導入される。不定名詞句が導入された $\exists$ によって束縛され、主語位置の *mei-ge* NP ‘every-NP’ より狭いスコープをとるので、「不特定の」と解釈される。その構造は(22)のように仮定する。

(22) 売買動詞類（売買動詞、消費動詞、結果複合動詞）と完了 *le*⁵⁾



そして、完了 *le* がなければ、事象が未完結となり、未完結な事象では動作主が「特定の個体」に対して働きかける可能性が生まれる。売買動詞類が非現実を表す *xiang* と共起する場合、(23)に仮定する構造のように、存在量化の $\exists$ が導入されず、不定名詞句が $\exists$ によって束縛されることはない。よって、不定名詞句は動詞句内に留まって解釈することもあれば、動詞句の外へ移動し、主語より広いスコープを取る位置で解釈することも可能である。後者の場合では、不定名詞句が「特定の個体」を指すことができ、「特定の」と解釈される。

(23) 売買動詞類（消費動詞、結果複合動詞）と非完了⁶⁾



最後に、(16a-ii)の記述について、結果複合動詞が完了 *-le* と共起しても、不定名詞句が「特定の個体」を指すことがあるという事実を、構造の問題ではなく、語用論の問題として捉えるべきであると主張する。目的語に起きた状態変化が変化前の元の状態に戻るという解釈が、現実世界で反復可能な状況に限る。(10a-c)に示された結果複合動詞の例を(24)に再掲する。これらの例における目的語の不定名詞句が「特

定の個体」として解釈されると不自然ではあるが、完全に容認不可能なわけではない。

- (24) a. 每个 人 都 撞破了 一道门。(？ 那 就是 这道) ($\forall > \exists, ?\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou zhuang-po-le yi-dao meng. (? na jiushi zhe-dao)
 every-CL person DOU hit-break-Perf one-CL door (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone had broken a door. (? And that is this one)’
 ‘皆一つの扉を（ぶつけて）壊した。（？ それはこの扉だった）’
- b. 每个 人 都 打哭了 一个 学生。(?? 那 就是 张三) ($\forall > \exists, ??\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou da-ku-le yi-ge xuesheng. (?? na jiushi Zhangsan)
 every-CL person DOU hit-cry-Perf one-CL student (that exactly is Zhangsan)
 ‘Everyone had hit a student to cry. (?? And that is this one)’
 ‘皆一人の学生を（殴って）泣かせた。（?? それはこの学生だった）’
- c. 每个 人 都 哭湿了 一条 手帕。(?? 那 就是 这条) ($\forall > \exists, ??\exists > \forall$)
 mei-ge ren dou ku-shi-le yi-tiao shoupa. (?? na jiushi zhe-tiao)
 every-CL person DOU cry-wet-Perf one-CL handkerchief (that exactly is this-CL)
 ‘Everyone had cried and wet a handkerchief. (?? And that is this one)’
 ‘皆泣いて一枚のハンカチを濡らした。（?? それはこのハンカチだった）’

例えば、(24a)における *yi-dao men* ‘一つの扉’は誰かに壊されたが、修理されて元の状態に戻し、またほかの人に壊されて修理されるという「壊されては修理され、修理されては壊される」のような状態変化が反復する状況を想定すれば、「一つ特定の扉」として解釈できるようになる。(24b, c)も同様に説明できる。(24b)では、不定名詞句 *yi-ge xuesheng* ‘一人の学生’が何度も人からいじめを受けたという状況を想定すれば、「特定の学生」を指すことが可能であり、(24c)では、*yi-tiao shoupa* ‘一枚のハンカチ’が濡れては乾き、乾いては濡れるという状況であれば、「同じハンカチ」という特定の解釈もできなくはない。つまり、現実世界で状態変化が反復するような状況を想定すれば、不定名詞句が「特定の個体」を指す解釈が可能になるということであるため、このような「特定の」解釈が語用論によるものだと考えておきたい。

3 結論

本稿では、中国語における目的語の不定名詞句の解釈を考察し、その解釈は事象の完結性及び述語のアスペクト性との関係を明らかにした。達成動詞、売買動詞、消費動詞、出現・消失動詞、結果複合動詞といった述語を用いて、完結性と結果状態を言及する事象における不定名詞句の解釈のあり方を論じた。また、Smith (1997)の分類に従い、述語のアスペクト性と事象の完結性の観点から述語を分類し、述語のタイプや完了 *le* によって導入された存在量化 $\exists$ を仮定することで不定名詞句の解釈を構造で捉えられることを示した。最後に、不定名詞句が例外的に「特定のもの」として解釈されるという結果複合動詞の事実に関して語用論で捉えるべきだと結論づけた。

なお、本論での主張では目的語の特定解釈と不特定解釈が事象の完結性に関わると仮定したが、(15)に示されている特例の特定解釈がどのように決まるかまだメカニズム的な説明を行っていない。このよ

うな特別な解釈が中国語母語話者によってどこまで容認されうるか調査する必要がある。また他言語のデータを見て、本論で言及した言語現象の普遍性と分析の妥当性について、今後の課題として考察していきたい。

参考文献

- Diesing, Molly. 1992 *Indefinites*. MIT Press. Cambridge, MA.
- Hale, Ken and Samuel J. Keyser 1993 On Argument Structure and the Lexical Expression of Syntactic Relations. In Ken Hale and Samuel J. Keyser (Eds.) *The View from Building 20*, MIT Press, Cambridge, Massachusetts, pp. 53-104.
- Huang, C.-T. J., Li, Y.-H. A., and Li, Y. 2009 *The Syntax of Chinese*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Ljungqvist, M. 2007 *Le, guo and zhe in Mandarin Chinese: a relevance-theoretic account*. *Journal of East Asian Linguist* 16, pp. 193-235. <https://doi.org/10.1007/s10831-007-9012-6>
- Robson, S. Y. 2005 The temporal relations and aspects expressed by the particle LE in Mandarin Chinese. *Journal of Chinese Linguistics* 33 (2), pp. 333-365.
- Smith, Carlota S. 1997 *The parameter of Aspect*. Kuwer Academic Publishers.
- Sybesma, R. 1997 Why Chinese verb-le is a resultative predicate. *Journal of East Asian Linguistics* 6, pp. 215-261. <https://doi.org/10.1023/A:1008238319773>
- Vendler, Z. 1957 Verbs and Times. *The Philosophical Review* 66 (2), pp. 143-160. <https://doi.org/10.2307/2182371>
- Wang, C. 2018 *The syntax of le in Mandarin Chinese* (Doctoral dissertation, Queen Mary University of London).

【付記】

本研究は、科学研究費助成事業（基盤研究(C) 課題番号 22K00504 : 代表 ZHAI YONG）の助成を受けたものである。

【謝辞】

本稿の修正に際し、査読者から貴重なコメントを頂いた。記して謝意を表したい。

註

-
- ¹⁾ $\forall > \exists$ は全称が存在より作用域 (scope) が広いということを意味し、 $\exists > \forall$ は存在が全称より作用域が広いということを意味する。
- ²⁾ 日本語では「皆一匹の犬を死なせた」と言う場合、「それぞれ異なった犬」という解釈と、「一匹特定な犬」という解釈が可能である。それに対する中国語の場合は、「それぞれの犬」しかないということは、日本語において主語とされる「皆」と中国語の每个 *mei-ge* NP ‘every NP’と異なっているプロパティを持つと考えられる。
- ³⁾ (9)に示した結果複合動詞 (RCV) は次のような組み合わせからなるものである。(i) 他動詞 (transitive V) + 非対格動詞 (unaccusative V) (打破 *da-po* ‘叩く-壊す’/打开 *da-kai* ‘叩く-開ける’)、(ii) 他動詞 (transitive V) + 非能格動詞 (unergative V) (骂走 *ma-zou* ‘叱る-去る’/打跑 *da-pao* ‘殴る-走る’/打哭 *da-ku* ‘殴る-泣

く’)、(iii) 非能格動詞 (unergative V) + 非対格動詞 (unaccusative verb) (哭倒 *ku-dao* ‘泣く-倒れる’)、
(iv) 非能格動詞 (unergative V) + 非能格動詞 (unergative V) (唱哭 *chang-ku* ‘歌う-泣く’)。

4) 樹形図 <<https://shorturl.at/ipPT7>>

5) 樹形図 <<https://shorturl.at/lotK6>>

6) 樹形図 <<https://shorturl.at/efPV4>>